

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 教育実習（幼稚園）Ⅱ ナンバリング：2810	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数：4単位 （4週間）実習	担当教員名： 塚越亜希子、片口桂 担当形態：複数
科目	教育実践に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育実習		
授業の到達目標及びテーマ （１）前期幼稚園教育実習（観察実習） ①園の環境及び指導教員と幼児に対して適切な観察を行い、事実即して記録できる。 ②園の経営方針及び特色ある教育活動、それらを実施する組織体制を理解できる。 ③園実務に対する補助的な役割を担い、幼児の実態や課題を把握できる。 （２）後期幼稚園教育実習（応用実習） ①幼稚園教育要領や幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し、保育実践を行うことができる。 ②必要な基礎技術を身に付け幼児の体験との関連を考慮して適切な場面で活用できる。 ③学級担任の役割と職務内容を理解し活動の場面で適切に幼児に関わることができる。			
授業の概要 幼稚園での観察・参加・実習を通して教育者としての愛情と使命感を深め、将来幼稚園教員となる上での能力や適性を考え、課題を自覚する。指導教員のもとで幼児と共に生活することで、保育に対する理解を深め、実地に即しての確かな知識と指導方法を体得する。			
授業計画「前半／観察実習」 （1週間 ・ 1年次） 第1回：園経営及び教育活動の特色への理解を深め、実習に参加する。 第2回：幼稚園教師の役割・職務や園の1日の流れ、幼児の実態について具体的に理解する。 第3回：事前準備や学習を基に教師に学び、幼児との関わり方、園記録の取り方を習得する。 第4回：園実務に対する補助的な役割を知り、実践する。 第5回：幼児の実態とこれらを踏まえた園経営及び教育活動の特色への理解を深め、実習に参加する。 第6回：幼児とのかかわりを通して、自らの課題を把握する。 第7回：部分指導案を立案し、ねらいをもって保育実践をする。 「後半／応用実習」 （3週間 ・ 2年次） 第8回：園の1日の流れ、保育のねらいを把握し、指導教員の活動のねらいとその指導の意図に気付き記録する。 第9回：教室、園庭などの環境設定を教師の意図を理解して自ら行う。 第10回：幼児同士の関わりや遊びの発展に目を向け、幼児一人ひとりの特性を理解したうえで援助する。 第11回：クラス担任の了承と指導のもとに、事前に責任実習のための教材研究や準備を行う。指導案（細案）を作成し提出する。 第12回：指導教員のもとでねらいを持った「部分実習」を行う。 第13回：「部分実習」を行い個と集団に対する指導方法を身に付ける。 第14回：「責任実習」クラスの指導者的な立場として幼児を指導する。 第15回：指導教員のもとで実習を振り返り、課題を見出し、改善する。		授業時間外の学習 （１）幼稚園教育要領を熟読して、ねらいの意味を理解する。（1時間） （２）実習先の幼稚園に関する情報を集め、日誌に書き入れる。（1時間） （３）日誌の書き方を基に一日の出来事を指導教員に学びつつ丁寧に書く。（1時間） （４）幼児の発達年齢を理解し、それぞれの特徴を踏まえて実習に臨む。（1時間） （５）年齢ごとの指導案作成。（1時間） （６）パネルシアター、ペープサート、絵本読み、手遊び等の技術を場面に応じて実践できるようにする。（1時間） （７）季節の歌や生活の歌など歌の伴奏や歌を場面や必要に応じて指導できるようにする。（1時間）	
授業の方法 実習。実習日誌と実習園からの評価をもとに個人面談をしてフィードバックを行う。			
テキスト 『実習の手引き』 埼玉純真短期大学			
参考書・参考資料等 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館			
学生に対する評価 実習園の評価（50%）、実習日誌・事前事後の取り組み（50%）から総合的に評価。			
履修上の注意 ・「教育実習（幼稚園）Ⅰ」を履修した上でⅡを履修する。 ・実習資格は、幼稚園教育実習に直接かわる所定の教科を履修し、実習資格審査によって認められた者に与えられる。普段の学習態度、生活態度で実習生としてふさわしい生活を心がけること。			
実務経験の有無	有	実務経験	塚越：元幼稚園勤務 片口：元保育園園長
実務経験を活かした教育内容 塚越・片口：幼稚園および保育園での現場経験を活かして、保育者に求められる基礎的な知識と技術、現代社会における幼稚園教諭の課題、クラスづくりなどを学生が具体的に考え、実践、評価できる授業を行う。			